

*Hello* サテライト  
*from* 地球研  
*Mobile* から  
*RIHN* こんにちは  
*Where* 対話が生まれる  
*Dialogue* 研究所  
*Begins*

会期: 2025.3.19(水)-25(火) 10:00-16:00

会場: 京都市立芸術大学A棟7階 / 入場無料、事前申込不要

LINKAGEプロジェクト: 新城 竜一(地球科学・地質学・岩石鉱物学)、有機物循環プロジェクト: 野田 健太郎(地域研究・生態人類学)、Sustain-N-ableプロジェクト: 林 健太郎(生物地球化学・土壌学)、Fashloksプロジェクト: 本郷 峻(保全科学・野生動物管理学・霊長類学)、SceNEプロジェクト: 渡邊 剛(地球環境学・サンゴ礁地球環境学)

主催: 総合地球環境学研究所 共催: 世界人権問題研究センター 協力: 京都市立芸術大学(予定)




Research Institute for  
**Humanity and Nature**  
大学共同利用機関法人 総合地球環境学研究所  
人間文化研究機構

研究者在室スケジュール

- 3月19日(水) 新城 竜一(LINKAGE)、渡邊 剛(SeeNE)
- 3月20日(木祝) 野田 健太郎(有機物循環)、林 健太郎(Sustai-N-able)
- 3月21日(金) 林 健太郎(Sustai-N-able)
- 3月22日(土) 新城 竜一(LINKAGE)
- 3月23日(日) 新城 竜一(LINKAGE)
- 3月24日(月) 野田 健太郎(有機物循環)、本郷 峻\*(Fashloks)
- 3月25日(火) 本郷 峻\*(Fashloks)

※午後のみ

 10:30-11:30、13:30-14:30 ギャラリートーク  
(最終日のトークは午後のみ)  
研究者を訪ねるゲストも参加予定  
最新情報は左のQRコードより

企画展示「サテライト地球研から こんにちは  
—対話が生まれる研究所—」では  
総合地球環境学研究所(地球研)の5人の研究者  
新城 竜一・野田 健太郎・林 健太郎・本郷 峻・渡邊 剛が  
会場内で日々の研究活動をしています。

地球研のモットーは  
“地球環境問題はことばの最も広い意味における  
人間の『文化』の問題である”。

自然科学的なデータを基盤としながら  
人文・社会科学の視点を取り入れ  
従来とは異なるアプローチで地球環境問題に取り組んできました。

研究者プロフィール



LINKAGEプロジェクト:新城 竜一  
1992年に琉球大学理学部で研究職に就き2007年には同大学の教授。専門は地球科学、地質学、岩石鉱物学。目にみえない同位体から壮大な地球の営みを探る同位体地球化学に魅了され、レーザー装置を含む質量分析システムを構築し、各種の同位体をトレーサーとした研究を展開。海底熱水活動、沈み込み帯やホットスポット火山など、深海からアフリカ大陸、ヒマラヤまで守備範囲を拡げてきた。



有機物循環プロジェクト:野田 健太郎  
東アフリカ・タンザニアで観光事業を10年間運営した後、京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科博士課程へ進学。コボスザルの炭食い行動とそれを観光資源に変化していく地域社会を研究対象として2023年博士号(地域研究)を取得した。現在はアフリカのザンビアとウガンダで食品ゴミをブタを使って堆肥にして、有機農業に利用する実践研究に挑戦中。



Sustai-N-ableプロジェクト:林 健太郎  
北海道大学にて工学修士、東京農工大学にて博士(農学)取得。バシフィックコンサルタンツ、産業技術総合研究所を経て、農業環境技術研究所(現・農研機構)。生き物たちがあるがままでいられることを願い、生物地球化学、土壌学、大気科学を専門としつつ、文理・分野を問わず広い関心を有している。窒素の環境動態の解明に始まった研究が、持続可能な窒素利用に資する学際・超学際知として結実することを目指している。



Fashloksプロジェクト:本郷 峻  
愛知県名古屋市生まれ。2016年、京都大学大学院理学研究科博士後期課程修了、博士(理学)。同霊長類研究所・研究員、同アフリカ地域研究資料センター・特定研究員、国際協力機構(JICA)・長期専門家などをを経て、2024年4月より現職。長期フィールド調査を研究の主軸とする。自動撮影カメラなど科学的手法と持筆者の地域知とを組み合わせ、熱帯雨林地域の野生動物マネジメント法の開発に取り組む。



SeeNEプロジェクト:渡邊 剛  
北海道大学理学部卒業・北海道大学地球環境科学院博士課程修了。東京大学海洋研究所、国立科学博物館、地質調査所、オーストラリア国立大学、フランス国立気候環境研究所、ドイツアーヘン工科大学で研究員、ハワイ大学ケワロ海洋研究所客員研究員を歴任。現在、北海道大学理学研究院講師、喜界島サンゴ礁科学研究所理事長、総合地球環境学研究所准教授。専門はサンゴ礁地球環境学。国内外に散らばる仲間と世界のサンゴ礁に出発し地球環境の謎に挑んできたが、近年はヒトに興味を持ち始め、ヒトと自然の関係性について探究を行なっている。

「サテライト地球研」は、地球研の一部が会期中  
京都市立芸術大学に拠点を移し  
新たな対話の場を生み出す試みです。

この場が、みなさんと環境問題や文化をめぐる問いを共有し  
考える1つの手立てとなることを期待しています。

地球研の研究者たちも、みなさんの日々の仕事や学業と同様に  
さまざまな問題や困難にぶつかっています。

地球環境問題の解決は複数の要因が  
絡み合う対立や葛藤の中にあり

単純な対処療法での解決は難しいとわかっているからです。

だからこそ、副題にある「対話」のなかで  
汲み尽くせない地球環境問題の状況を

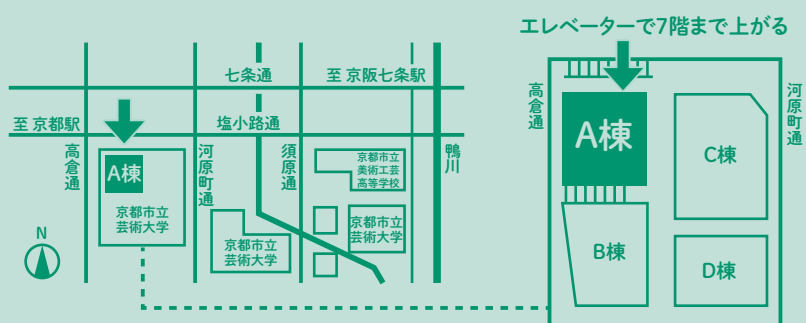
いかに共に引き受けていくのかに向き合います。

ここで生まれる対話が、新たな問いを生み  
次なる対話への一歩となることを願って

たくさんの対話が生まれる研究所「地球研から こんにちは」

アクセス

JR・地下鉄・近鉄「京都」駅から徒歩約6分、京阪「七条」駅から徒歩約8分  
市バス「塩小路高倉・京都市立芸術大学前」下車すぐ



〒600-8206 京都市下京区下之町57番地1

京都市立芸術大学 A棟7階 世界人権問題研究センター 多目的スペース